

令和7年度

学校経営方針

台東区立根岸小学校長 小西 祐一

深刻さを増す少子化・高齢化、混迷の度を増すグローバル情勢、気候変動に伴う自然災害の激甚化、せいせいAI など、デジタル技術の発展など、不確実性がこれまでになく高まっており、これからの我が国を担う子供たちは、激しい変化が止まることのない時代を生きることになる。現在、我が国の教育は「令和の日本型学校教育」の実現に向けて、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図っていくことが求められており、また、第四次教育振興基本計画で示された「ウェルビーイング」、についても重要な教育課題として示されている。これらの今日的な教育課題に応えるべく日々の教育活動を充実・発展させていくことが学校現場に求められており、本校もその一翼を担うべく一丸となって教育活動の充実に力を尽くしていきたい。今年度は、特に、文部科学省教育課程実践検証協力校として、特別の教科 道徳について校内研究で取り上げ、道徳教育の推進を目指して組織的に取り組むとともに、東京都小学校教科担任制等推進校として、教科担任制を通して教科の特質を生かした授業の実現を目指し、教科担任制の有効性について検証していきたい。

ところで、本校は明治7年に創立して以来、地域が誇る学校として常に範を示す使命が受け継がれている。一昨年度は創立150年目を迎え、本校の歩みを改めて振り返り、その歴史と伝統を守りながら新しい時代を切り拓く人間の育成を目指していこうと気持ちを新たにしたところである。幸い私たちには諸先輩方が残した多くの教育実践がある。私たちはこれらの財産を生かし新たなカリキュラムの開発と授業の創造に全力で取り組み、「教育立国」であるわが国の国家戦略の一翼を担うべく力を尽くしていく。

I 基本理念

(1) 「志教育」を学校経営の柱とする

「自分はこれのために生きたい」と思えるものを見付け、その実現のために必要な力を身に付けられるようにすることが、学校教育の究極の目的であると考え。「志」とは、「これのために生きたい」「何としてもこれを実現したい」という強い願いであり、一人一人違う願いをどの人ももっている。そして、その願いは様々な出会いと出来事によって引き出される。先生との出会い、友達との出会い、一冊の本との出会い、学問や芸術との出会いなど、何によって児童の中にある志の種子が開かれるかは予想できない。出来事も同様である。驚きや感動だけでなく、さりげなく感じたり考えたりしたことが後の人生に大きく影響することもある。また、試練として訪れた出来事が願いへと転換していくこともある。そして、先人をはじめ多くの人の人生を見ると、志の種子が開かれる場面は子供のうちにすでに訪れていることが少なくない。私たちは、「志の種子の芽生えが起こるのは、今日かもしれない」という思いをもって、児童に関わることが大切である。

(2) 本校の歴史と伝統を継承し発展させる

本校は明治7年2月22日に開設され、本年度152年目を迎える歴史と伝統のある学校である。本

校の歴史は常に研究活動と共にあり、その時代の教育課題に応えるべく教育研究活動を展開し、「研究の根岸」として多くの成果と実績を積み重ねてきた。

本校がそのような歴史と伝統をもつ学校であることは誰よりも地域がよく知るところであり、本校に寄せる期待は絶大である。保護者や地域は、常に小学校教育をリードする存在として根岸小学校を誇りに思うとともに、本校の教育の内容や方法について強い関心を持ち、高い水準の教育を求めている。私たちは、「研究の根岸」の火を絶やすことなくさらなる発展を目指し、児童の成長した姿をもってその期待に応えていかなければならない。

(3) 時代・社会の要請に応える

変化の激しい現代の社会において、求められる資質・能力も当然変化してきている。21世紀を生きるために必要な力とは何か。また、その力を身に付けるためにはどのような教育が必要か。私たちは常にその問いの答えを探して、よりよい教育の創造に力を尽くしていく。本校では、「根岸で学び、世界にはばたく」をスローガンに、グローバルに生きるために必要な資質・能力を育てるとともに、自らの「こころざし」を探求し、持続可能な社会づくりの担い手の育成を期して教育の充実を図っていく。

II 本校の教育目標

『 **みがく** **かかわる** **未来をひらく** 』

●すなおな子（基底） ●よく考える子（知） ●なかのよい子（徳） ●たくましい子（体）

●すなおな子（基底）

・規律の徹底を図り、学習自立、生活自立、精神自立を目指す。

●よく考える子（知）

・「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づいた授業改革とカリキュラム・マネジメントの実践。
・各教科等の特質を生かし、学ぶ喜びや考える楽しさを十分に味わえる授業を創造する。

●なかのよい子（徳）

・縦割り班活動を充実させ、異年齢交流を通して豊かな心を醸成する。
・道徳教育の全体計画をもとに道徳科の充実を図るとともに、志教育を推進する。
・いじめ防止と早期発見・早期解決に努め、組織的に指導に当たる。

●たくましい子（体）

・体育の授業の充実と体育的行事や体育的な日常活動を充実させ、体力の向上と健康の増進を図る。

III 教育内容・教育方法にかかわる経営方針

(1) 各教科等の指導の充実

- ①第5・6学年を中心に教科担任制を導入し、より専門性の高い学習活動を展開する。
- ②学習指導要領に示される各教科の目標や内容の理解を深め、児童に教科の特質を十分に味わせるとともに、確かな力を身に付けさせることができるよう指導の充実を図る。
- ③学習の始めにはめあてを明確にし、授業の終わりには振り返りを行う。

④構造的な板書を工夫し、ノート指導を徹底する。

(2) 教育環境の整備・充実

①言葉遣いの指導を徹底するなど、言語環境を整える。

②教室は子供の生活の場である。日々、安全点検を行うとともに、常に整理整頓を心がける。

③児童のお手本となる整った文字による板書に心がけ、文字を丁寧に書くよう指導する。

④学習の足跡が分かり、自分自身の成長を確かめられる教室掲示に努める。

(3) ICTの充実

①1人1台タブレットパソコンを有効に活用し、様々な学習形態に対応できるようにする。

②ICTを効果的に学習に取り入れ、児童の興味・関心を高めるとともに、活発に思考をはたらかせる指導法を開発する。

(4) 「持続可能な開発のために教育 (ESD)」の実現を目指す

・SDGsのゴール4(教育)を軸として、全てのゴールを視野に入れて教育活動の充実・改善・創造に努める。

(5) 道徳教育の充実

①「特別の教科 道徳」を要に、道徳教育全体計画を基に全教育活動を通して豊かな心の育成を図る。年間35時間の道徳科の授業を充実させるとともに、各教科や行事等と関連させ、指導計画並びに別葉をより精度の高いものに更新していく。

②道徳の基礎的な授業の組み立て方を基としながら、「考え、議論する道徳」の授業を目指す。

③「特別の教科 道徳」の評価を適切に行う。

(6) 国際社会に生きる資質を養う(外国語教育の充実)

・外国語及び外国語活動の充実を図るとともに、我が国の伝統文化への理解と愛着を深める。

(7) 規律ある学校生活

①規律は、個の自立を支えるとともに集団としての成長の基となるものであり、指導の徹底を図ることが大切である。また、学校として共通の認識で指導にあたることは言うまでもない。

②語先後礼を徹底し、礼儀正しく気持ちのよい挨拶ができるようにする。

③「根岸小のきまり」を徹底させるほか、「根岸八か条」を意識して学校生活を送るよう指導する。

(8) 主体性を育てる教育活動の工夫

①教育活動全般にわたって主体的に取り組むことができるように、めあてをもたせたり、解決方法を考えさせたりするとともに、振り返りを行うことで、成長を確かめ次のめあてへとつなげられるようにする。

②クラブ活動では「この指とまれ」方式を取り入れ、主体的に計画・運営できるように指導する。

③ノーチャイムを継続し、時間を意識して自ら行動できる自立した児童の育成を図る。

(9) 人的・物的資源の開拓

・生活科や総合的な学習に時間を中心に、地域にあふれる豊富な物的資源を教材化し、6年間を通して系統的に学習できるよう指導計画の見直しを行う。